

日本社会情報学会 (JSIS) ニュース

第38号 2010. 5. 13

- I 新会長の挨拶
- II 理事会役員の交代、役割分担及び委員会構成について
- III 2010年度15回研究大会に関するお知らせ
 - (1) 日程と開催場所
 - (2) 一般自由報告の申し込み締め切りについて
 - (3) ワークショップ企画案の募集について
- IV 研究委員会・若手支援部会からのお知らせ
- V 第57回日本社会情報学会 (JSIS) (引き継ぎ) 理事会議事録
- VI 「この2年間のまとめと今後の課題」(前理事会報告資料抄)
- VII 2010年大会合同企画委員会(第1回) 議事要旨案
- VIII 日本社会情報学会 (JASI&JSIS) 九州地区研究会報告
- IX 会費納入のお願い(事務局)
- X 事務局変更のお知らせ

I 新会長の挨拶

伊藤 守 (早稲田大学)

思いもかけず会長職に選ばれました。非力ではありますが学会の活動が一層活発におこなわれるように努めたいと思っております。現在の課題と学会が今後進むべき方向性についての、私の認識を申し述べます。

社会情報学の飛躍のために

大きな課題として2つのことがらがあると考えています。第1は、社会情報学の教育研究の重要性が益々高まっていることです。言い換えれば、この分野の研究の量的かつ質的な飛躍が求められているという点です。Blog や twitter に見られる電子メディア利用の急速な拡大は社会的コミュニケーションのあり方に大きな変容を引き起こし、この変化はパーソナルなコミュニケーションのみならず、社会的な広がりをもつ政治的コミュニケーションや政治意識、あるいは経済活動に対しても少なくない影響を与えています。今後その影響はますます決定的なものになるでしょう。またグーグルによって提起された世界規模の電子図書館化の動きやそれに対抗する動向、電子図書館化に向けた動向の進展、そして出版や映像・映画そして放送分野の本格的なアーカイブ化に向けた動きとその活用に関する議論の活発化、さらにインターネットを活用した選挙活動を認める法制度の整備等々、メディアの技術的革新に起因する社会変化が次々と生起しています。こうした「高度情報化」あるいは「社会システムの全域的なデジタル化」が進展する中で、この変化の本質を見極め、そこに生じている諸問題を理論的にも、実証的にも、解明することを目指す「社会情報学」の発展が強く求められていると言えます。

こうした社会的要請に応えるためには、国内外(とくに東アジア圏)の関連諸学会や研究者との連携や交流をすすめながら、私たちの自身の研究力量を大いに高め、社会的発言力を強めていく必要があります。そのためにも、学会として、会員の研究が一層前進するような企画や支援を検討し、実行していきたいと考えます。

若手研究者の支援

第2は、上記した学会の研究活動を強化する上で、もっとも重要な柱として、若手研究者の支援を重視した取り組みを進めるという点です。前黒須会長のリーダーシップのもとで、若手支援・若手重視の方向性が提示されました。この方向を継承して、若手研究者が一層活発に議論し、研究成果を産出できるような環境をつくりたいと考えます。

「社会情報学」はまだまだ若々しい学問領域です。しかも既存の研究パラダイムや理論では対応できない多くの問題が生まれているが故に、大胆な発想の下に斬新なパラダイムを構想し、多くの研究が展開されることがなによりも求められています。そしてこうした課題に若手研究者が応えることを大いに期待したいところです。そこで、具体的には、研究交流や発表の場をこれまで以上に増やすこと、海外学会との関係を強化すること、海外の学会等で活躍できる研究者の支援体制や環境の整備すること、さらに様々なかたちでの財政的援助等に努めていくことなど、いくつかの施策を考えています。また、各種の委員会や理事会にも若手研究者が参加し、学会の運営に若手が積極的にかかわることも必要でしょう。いずれにしても、若手研究者が主体的に学会活動にコミットできる環境を整備する方向を明確に打ち出したいと思えます。またそのことが、社会情報学の魅力を高め、多くの会員を迎えることにもつながるのではないかと期待します。

二つの「社会情報学会」問題

上記の2つの課題に加えて、もうひとつの課題があります。それは、同一名称の『社会情報学会』（JASI）との関係にかかわる課題です。この間、JASI と JSIS は研究発表大会を合同で運営し、相互の研究交流を進めてきました。こうした経緯をふまえ、私個人としては、両学会の今後のあり方について、理事会ならびに会員の意向・意見を十分に尊重しつつ、前向きに対応してまいりたいと考えます。その際に、考慮すべきいくつかのことがらがあると思います。

その1つは、上記のように、社会情報学全体の研究教育活動の飛躍、そしてこの分野の専門的知識に裏打ちされた会員や研究者の社会的貢献がこれまで以上に求められている状況で、同一名称の学会が並存することのデメリットを考えておくべきであるという点です。外部の関連学会との連携を考える上でも、さらに海外の学会との連携や海外の研究者との研究交流を進めるという側面から見ても、同一名称の学会があることは不自然であり、このことがこの分野の発展を促すものとは言えないと考えます。

第2に、あらたに入会申請を希望する場合、特に大学院生や若手研究者が入会する場合に、二つの学会があることで、入会を躊躇するケースが少なくないということです。どちらの学会に入会すべきか、二つの学会はどう違うのか等、入会希望者がこれらのことに迷い、入会を躊躇うケースがあります。いわば入会に至るまでのハードルを学会側が設定しているわけであり、この分野の研究を推し進める上で、こうした点をできるだけ早く解決すべきでしょう。

もちろん、両学会には、それぞれの歴史があり、学会としての性格や運営の方法に関して無視できない違いがあることも確かであり、その点を尊重すべきです。しかしながら、そうした違いを乗り越えて、社会情報学の発展を展望した場合にどのようなあり方が望ましいのか、前向きに議論する時期に来ていると考えます。また、今後のあり方についても、複数のさまざまな選択肢があるだろうと考えます。ぜひご意見をお寄せいただければと思います。

以上、今後の学会活動を進める上で議論が必要な検討課題を申し述べました。

II 理事会役員交代、役割分担及び委員会構成について

2010年4月11日(日)、2010年度第一回理事会(通算第57回)が開催され、新たに総務委員会の設置と各理事の役割分担について審議し、(その後の調整を経て)以下の通り承認されましたのでお知らせいたします。なお、今後下記の方以外にも委員を委嘱することもありますのでよろしくお願いいたします。

会長	伊藤 守(早稲田大学)	全体統括
副会長	遠藤 薫(学習院大学)	渉外担当 (社会学系コンソーシアム、学術会議等)
副会長	安田 孝美(名古屋大学)	学会活性化・重点課題の責任者

研究委員会

委員長	正村 俊之(東北大学)
副委員長	大國 充彦(札幌学院大学) 若手支援責任
若手支援部会長	柴田 那臣(大妻女子大学)

委員

(北海道地区)：大國充彦(札幌学院大学)、小池英勝(札幌学院大学)
(東北地区)：正村俊之(東北大学)、古賀豊(新潟大学)

(関東地区)：柴田邦臣(大妻女子大学)、吉田寛(静岡大学)、竹之内禎(東海大学)
(中部地区)：加藤晴明(中京大学)、吉田千穂(名古屋大学)
(関西地区)：田畑暁生(神戸大学)、平田知久(京都大学)
(中国地区)：今田寛典(広島文化学園大学)、時津啓(広島文化学園大学)
(九州地区)：森田均(長崎県立大学)、杉山あかし(九州大学)

編集委員会

委員長 橋元 良明(東京大学)
英文雑誌担当委員長 岡田 安功(静岡大学)
英文雑誌担当副委員長 吉田 純(京都大学)
和文雑誌担当委員長 北村 順生(新潟大学)
和文雑誌担当副委員長 守弘 仁志(熊本学園大学)

学会賞選考委員会

委員長 西垣 通(東京大学)
副委員長 遠藤 薫(学習院大学)

法務委員会

委員長 伊藤 賢一(群馬大学)
副委員長 岡田 安功(静岡大学)

合同研究大会企画委員会

JSIS 企画委員代表 正村 俊之(東北大学)
'10 企画委員 伊藤 守(早稲田大学)
遠藤 薫(学習院大学)
北村 順生(新潟大学)
黒須 俊夫(国士舘大学)
倉掛 崇(西日本短期大学)
柴田 邦臣(大妻女子大学)
服部 哲(神奈川工科大学)
藤井 史朗(静岡大学)
森田 均(長崎県立大学)
吉田 寛(静岡大学)

総務委員会

委員長 栗川 隆宏(広島文化学園大学)
副委員長 藤井 史朗(静岡大学)
事務局長 今田 寛典(広島文化学園大学)
委員 時津 啓(広島文化学園大学)
HP 刷新部会長 安田 孝美(名古屋大学)
HP 刷新副部会長 大國 充彦(札幌学院大学)
HP 刷新部会員 服部 哲(神奈川工科大学)

Ⅲ 2010年度15回研究大会に関するお知らせ

2010年度第15回日本社会情報学会(JSIS)研究大会は、これまで同様に、JASIとの合同研究大会として開催いたします。

開催日程、会場、参加申し込み方法等は、下記のとおりです。

(1) 日程と開催場所

①開催日程：2010年9月4(土)～6日(月)

JSIS 関係の大会は、4日と5日

②開催校：長崎県立大学

③会場：長崎県立大学シーボルト校

〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1

TEL095-813-5500/FAX095-813-5220

(2) 一般自由報告の申し込み締め切りについて

①論文発表申し込み締め切り 5月31日(月)

発表論文原稿締め切り 6月30日(水)

②申し込み先

・大会自由報告発表申し込み専用 URL

<http://cello.mdg.ss.is.nagoya-u.ac.jp/~jsis/>

ID: jsis

パスワード: taikai2010

・予稿集用論文原稿の送付先メールアドレス

jsis.taikai@gmail.com

☆執筆要綱は合同企画委員会で検討中ですので、決まり次第学会 HP に掲載いたします。これまでの原稿枚数は、4頁もしくは6頁です。

(3) ワークショップ企画案の募集について

ワークショップ企画案の原稿は、企画内形に関して600字以内にまとめ、報告者・司会者・討論者（自薦・他薦どちらでも可）を明記の上、企画委員会(上記アドレス jsis.taikai@gmail.com)まで申し込みをお願いいたします。この後、合同企画委員会で提案内容について検討します。

IV 研究委員会・若手支援部会からのお知らせ

研究委員会・若手支援部会では、今年度の長崎大会にて、若手研究者を支援するための「旅費助成」と「プレカンファレンス」を企画いたします。

(1) 若手の学会参加者への旅費助成

- ・若手支援の一環として、大会参加のための旅費の一部を学会として補助します。
 - ・補助ならびに支援は、一人当たり5000円程度（東京近県の会員は2泊3日で35,000円程度の旅費になる見込みです。）
- ※ 旅費助成は今回限りの予定で、またとない機会です。若手研究者の皆さんは、ぜひ大会での報告をご検討ください。
- ※ 本企画における「若手」は39歳以下で、常勤の職についていない研究者（大学院生または非常勤講師などを主な収入としている方）をさします。
- ※ 現在、大学・研究科によっては、大学運営費等からの、大学院生の出張旅費の支出が認められる場合があります。また、日本学術振興会特別研究員の場合は科研費から支出できます。そうした場合には今回の補助はご遠慮いただき、大学運営費・科研費等で出張旅費の申請をお願いします

(2) プレカンファレンス（9月3日 夕方）

国際研究をめざす若手と、経験を伝えたい有職者がともに議論できるような、新しいセッションと懇親の場を、学会前日に「プレカンファレンス」として企画します。長崎という立地にふさわしい、アジア地域や社会情報学の国際潮流に関するテーマを検討中です。初日から大会に参加するためには、前泊が必要な方が多いので、それに対応しています。

若手・有職者の方、多くの皆さんが出会い、交流していただけるような場となれば幸いです。ぜひご予約をあわせ、ご参加ください。

(1)(2)とも、申し込み方法・詳細は、次号までにご案内いたします。学会Webサイトもご覧ください。

研究委員会では、内容面でも経済面でも「先輩が後輩を支える」若手支援をめざしています。多くの皆様に学会に参加していただくことが、若手支援と研究領域の活性化に結びつくような企画にいたします。長崎でお会いできることを楽しみにしております。

V 第57回日本社会情報学会 (JSIS) (引き継ぎ)理事会議事録

日時：2010年4月11日(日) 13:30~17:30

場所：東京大学大学院情報学環(本館) 6階会議室

出席者：伊藤守(新会長)、黒須俊夫(前会長)、遠藤薫(前・新副会長)、安田孝美(前理事・新副会長)、伊藤賢一(新理事)、今田寛典(前理事・新事務局長)、大國充彦(前副会長・新理事)、岡田安功(前・新理事)、北村順生(前・新理事)、栗川隆宏(新理事)、柴田邦臣(前・新理事)、西垣通(新理事)、橋元良明(前・新理事)、藤井史朗(前事務局長・新理事)、正村俊之(新理事)、守弘仁志(前・新理事)、森谷健(前理事)

先ず、理事会(前)が開催され、報告事項(第56回理事会以降の活動及び「この2年間の活動のまとめと今後の課題」)に関する事項等が審議された。この後、新理事会が開催され、新会長の挨拶を始め、新体制について審議された。

<前理事会(最後の理事会)>

<報告事項>

1. 第56回理事会以降の活動及び「この2年間の活動のまとめと今後の課題」(後述)

イ. 和雑誌編集委員会

橋元前委員長より「2年間の活動のまとめ」(別紙一以下「まとめ」と記す)に基づき、次の点が報告された。

「原著論文」と「研究」の相違をレベルではなく性格の差として規定すること、査読評価に「修正の上、再審査」を加え、「修正稿ワーキング」による修正のチェックを行うことにしたこと、一人でも不可の評価の場合非掲載になっていたこれまでの方法を改め、多数決にしたこと、「査読委員」を設置したこと、などである。

ロ. 洋雑誌編集委員会

今田前委員長より「まとめ」及び別紙報告資料に基づき、合同編集委員会の構成、VOL.3の編集経過等について報告された。

これについて、英文翻訳料の問題、海外研究者からの投稿の際、会員になってもらうこと、等の意見が出された。

ハ. 研究委員会

守弘研究委員より、九州地区での2回の研究会実施について報告された。

ニ. 学会賞選考委員会

「まとめ」に基づき、昨年度の学会賞選考経過について確認された。

ホ. 合同研究大会企画委員会

安田委員長より、「まとめ」に基づき、昨年度大会において、コンベンションの補助金獲得、保育施設幹旋などの新しい取り組みをした旨報告された。

ヘ. 企画委員会

大國委員長より、2008年度より新設された本委員会において、若手支援やWebのリニューアルの手続き整備などに取り組んだ旨報告された。また、柴田委員より若手支援の具体化として、3回のWSを開催した旨報告された。

これについて黒須会長より、WebのニュースにNo1~No8までも探して載せてほしいとの要望があった。

ト. 渉外・交流委員会

遠藤委員長より、「まとめ」に基づき、JASISとの合同研究大会のルーチン化、合同洋雑誌の発行、若手支援における協力関係、社会学系コンソーシアムへの参加について報告された。

このことについて、JSISとJASISとの関係進展の度合い、学会発表優秀賞の審査基準の整合性等についての質問があった。

チ. 法規委員会

岡田委員長より、「まとめ」に基づき、名誉会員推薦基準についての申し合わせ、非常勤職員、留学中会員に対する会費減免措置規定、著作権Q&Aの策定等の整備を行ったこと、なお今後、規約の整理が必要であること、事務局長と理事会の関係の再考、引き継ぎ理事会の性格についての整理、会長選出規定の整備などの課題があることが報告された。

リ. 事務局

藤井事務局長より、別紙資料により、2009年度の入退会者数、会費納入状況、会計報告とその特徴について報告された。

〈審議事項〉

1. 第56回理事会議事録(案)の承認について(別紙1)
提案通り承認された。
2. 入・退会の承認について
前理事会以降の入退会者について藤井前事務局長より紹介され、承認された。
3. 高校授業科目「情報」のセンター入試問題化への対応
黒須会長より本件についての問題提起がなされ、意見交換したが、「入試問題化への対応』に関しては、たんに入試の問題にとどまらず、高校における情報教育にかかわる問題であることが指摘され、次期理事会への申し送り事項とすることが確認された。
4. 英文雑誌用翻訳料の支出について
本件について意見交換した結果、翻訳料の支出については、招待論文や外部識者の講演と言ったものに限定されるべきことがらであることが確認された。今回のケースは見積もり金額が高額であり、いくつかの業者に見積もりを出させ、適正価格を審査することを次次期理事会への申し送り事項とした。
5. 会長及び副会長の選出方法について
岡田法規委員長より、本件についての経過が報告され、意見交換した結果、会長副会長の選出について、理事会から問題が指摘され、適切な方向での改革について次期理事会に申し送りすることとなった。
6. 最後に黒須会長から退任の挨拶があり、同じく退任する吉井理事、森谷理事、今田理事の労がねぎらわれた。

<新理事会>

〈審議事項〉

1. 2010年度活動の方針 新会長からの問題提起
伊藤会長より、別紙により、2010年度の方針・重点課題として次の点が指摘された。
これまでの学会運営において、若手支援政策や事務業務の外部委託などの成果があったが、今後の柱としては、第一に、若手支援とともに学会を若手の活躍の場にしたいこと、第二に、学会の認知度を高め、特に海外へ発信することであり、激しいメディアの進歩に学会が応えていくことが必要である。第1の点に関し、具体的には夏休みなどを活用した院生交流集会の実施や大会期間中の若手研究者のためのプログラム企画の継続・民間研究者との交流、第2の点に関し、学会の活性化のために、地区別・分野別など多様な形での研究会の実施、学会誌紙面の工夫、HPのフレッシュ化、次期理事など若手による運営を射程に入れた委員会への若手起用等が重要である。また、JASISとの関係強化もしくは統合問題、高校の「情報」科目のセンター入試化への対応なども課題として挙げられた。
この点について議論し、外から見た場合の同名の学会が二つあることの不自然さや不合理さなどから統合をいち早く進めるべきとの意見、前向きに検討する場合でも規約や事務局他の業務等についての調整などが必要であるとの意見が出された。
2. 2010年度の各委員会担当・分担役割
伊藤会長より別紙に基づき、2010～2011年度の役割体制についての案が提案され、了承された。
3. 2010年度合同研究発表会・合同実行委員会
安田前委員長より、3月6日に第一回合同実行委員会を開催し、5月15日に第二回を予定している旨報告された。
4. 次回理事会の開催日程について
7月17日(土)13時30分より、東京大学情報学環で行うことが確認された。

VI 「この2年間のまとめと今後の課題」(前理事会報告資料一抄)

§1 学会誌(和雑誌)編集委員会 委員長 橋元良明

<今期の主な改革点>

1. 「研究」の性格の明確化

「原著論文」と「研究」の相違を、レベルの差ではなく性格の差とし、投稿要領にも「研究」は、萌芽的または試論的性格をもち、実証性、問題提起、視点、アイデア等に優れたものがあり、今後の発展性が十分期待できる研究論文、あるいは重要なテーマについて内外諸理論を広く検討し、概観する論文を意味する。」と明記した。

2. 査読システムの変更

これまでの評価ランクを一部変更し「修正の後、再審査」を加えた。また、掲載の是非について、査読者評価における多数決主義を採用し、客観的に採否を決定できるシステムに変更した。

さらに「修正の上、掲載」相当の評価を受けた投稿論文が、修正されて編集委員に提出された後、「修正稿ワー

キンググループ」による検討を行い、「再修正要求」もありうるプロセスに変更した。

3. 査読委員の設置

投稿論文の増加に鑑み、新たに「査読委員」を設置し、新規に数名に委嘱した。

4. 投稿要項の改訂

既に慣例化していた電子ファイルによる提出を明記する等、実勢に合わせ投稿要領を改訂した。

5. 投稿原稿の書式の整備

投稿原稿の書式を整備して学会ホームページ上で公開し、投稿はこの書式に従うこととした。これにより、編集作業の負担が軽減されるとともに、図表部分を字数へ換算する際の分量の曖昧さがなくなった。

<今後の課題>

1. 修正稿受諾以降のプロセスが十分ルーティーン化していない。
2. 毎号「取りまとめ役」に過剰な負担がかかる傾向があり、システムティックな業務の分業化をはかるべきである。

§2 洋雑誌編集委員会 今田寛典

Journal of Socio-Informatics 編集委員会 (JSI 編集委員会) 活動報告

2008年4月1日～2010年3月31日

1 編集委員会

JASI と JSIS の合同の編集委員会を設置した。

JASI 側 10 名、JSIS 側 10 名の編集委員で組織。

委員長 1 名 (編集委員から選出)、副委員長 2 名 (JASI と JSIS から選出)。

2 編集方針

世界に発信する雑誌を目指す。

投稿論文個々に担当委員を選定し、その担当委員が査読者の提案、編集委員会で承認。

担当者は、投稿者および査読者との橋渡し、さらに編集委員会への採択・不採択案の提示をする。

査読者は 3 名である。

Vol.1 は原著論文のみ、Vol.2 は原著論文と招待論文を掲載。

Vol.3 には原著論文、研究ノート、招待論文を掲載。

3 英文誌発行

英文誌 Vol.1 の印刷・発行、Vol.2 の編集と印刷・発行、Vol.3 編集を行った。

Vol.1 の編集は暫定の編集委員会が担当し、印刷・発行を JSI 編集委員会 (JASI&JSIS 合同編集委員会) が行った。Vol.3 については編集までを行った。本年 9 月印刷・発行予定。

雑誌の PR 効果を狙って Vol.3 までは印刷発行とする。Vol.4 以降は Web 公開を主とする方針であるが、今後検討される。

4 英文誌の Web 公開

原則 Journal of Socio-Informatics は Web 公開とする。

CiNii 登録予定である。CiNii との登録契約者は JASI である。

CiNii に登録されている Journal of Socio-Informatics の論文を無料検索できるようにするため、JSIS 名簿を JASI 事務局に通知する。

同時に、両学会のホームページ上でも公開されている。

5 費用

費用は、JASI と JSIS で折半する。招待論文については、その都度協議する。

査読者への謝金 5,000 円を支出する。

6 今後の課題

投稿論文の増加策の検討。

海外研究者、特にアジア諸国の研究者からの投稿を目指す。

投稿料の徴収。

印刷発行の検討。

§3 研究委員会

九州地区研究会 守弘仁志

1. 2008年10月17, 18日に熊本県球磨郡山江村にて“九州発信・地域情報化”「ICTを活かした持続可能な地域

社会と人材育成」というテーマで J A S I 九州支部と合同での研究会を実施した。

2. 2009年11月6,7日に長崎県対馬市において・持続可能な地域づくりに向けた情報環境と方向性～離島地域における地域メディアの役割と可能性～というテーマで J A S I 九州支部と合同での研究会を実施した。

3. 今後は J S I S 九州地区研究会単独での研究会の実施も検討したい。

§4 学会賞選考委員会 吉井博明

1. 活動のまとめと今後の課題

・この2年間では、1回は該当論文あり、1回は「なし」であった。できるだけ該当論文を出すようにしてはいるが、今年度は、多分、初めて「該当論文なし」に終わった。来年度以降は、何とか該当論文ができるように多くの若手論文を集めて欲しい。

・課題としては、以下のようなことが挙げられる

①対象とする論文が手元に届くのが遅れる：学会誌の発行が選考時期と重なるため、印刷ができないうちに選考を始める必要がある。このため PDF ファイルを送ってもらいながら選考することになり、そのやりとりの手間がかかる。

②評価結果がなかなかそろわない：評価時期がちょうど夏休み中になるので、海外に行く委員の先生等がおり、連絡がつかない委員の先生もいる。委員の選考も工夫した方がよい。

③選考対象論文：多くの執筆者がいる場合、40歳以下の執筆者が一人でもいれば選考対象になるのは問題かもしれない。筆頭執筆者であれば、問題ないと思うが、・・・

④類似論文を他の学会誌に投稿している場合は慎重に選考する：学際研究雑誌なので、いろいろな分野からの投稿があるが、他の学会誌等に類似論文を投稿している場合の選考は注意を要する。そのような論文を学会賞に決める前に類似論文をチェックすることが必要ではないか。

§5 合同研究大会企画委員会 安田孝美

1 2008年日本社会情報学(JSIS&JASI)会合同研究発表大会実施報告

【テーマ】デジタル社会の課題に応える社会情報学

【開催日】2008年9月12日(金)～14日(日)

【開催校】東京大学

【企画委員会】

JASI

遠藤薫(学習院大) 太田敏澄(電気通信大) 岡田勇(創価大)

木村忠正(東京大) 五藤寿樹(日本橋学館大) 桜井成一朗(明治学院)

須藤修(東京大) 田中秀幸(東京大) 廣松毅(東京大)

山本佳世子(電気通信大)

JSIS

阿部圭一(愛知工業大) 遠藤薫(学習院大) 黒須俊夫(群馬大)

柴田邦臣(大妻女子大) 森谷健(群馬大) 安田孝美(名古屋大)

【大会実行委員会】

委員長 須藤修(東京大：JASI)

委員 田中秀幸(東京大：JASI) 木村忠正(東京大：JASI)

是永諭(立教大：JSIS) 中森広道(日大)

2 2009年日本社会情報学(JSIS&JASI)会合同研究発表大会実施報告

■実行委員会関係

□参加者数

合計 207名

JSIS & JASI 会員参加者数 141名

一般参加者数 66名

懇親会参加者数 84名

□大会運営

・事前の会員向け連絡手段と一般向け広報手段とをかねる目的で、実行委員会により学会大会ホームページを開設した。

・新潟市コンベンション開催補助金制度の交付を受けた。

- ・実行委員会で近隣の保育施設の幹旋を行った。
- ・ポスターやチラシを印刷して、近隣の大学や図書館、公民館などに配布するなど、一般参加者を募る事前の広報活動を行った。
- ・大会発表論文集の印刷は、予算的に最も低い JSIS 学会誌『社会情報学研究』の印刷を行っている朝日印刷工業株式会社（群馬県前橋市）に発注した。
- ・参加者アンケートを実施した。

■企画委員会関係

□案内

- ・「大会行事へのご案内」と「研究発表（自由報告）のご案内」の作成した。

□会員外協力者への謝金

- ・合同研究発表大会への協力者に対する謝金の目安が検討され、次のようになった。

- 1) 交通費 : 実費
- 2) 宿泊費（必要な場合） : 10,000 円
- 3) 基調講演／特別講演 : 20,000 円
- 4) シンポジスト : 10,000 円
- 5) WS 協力者 : 5,000 円

- ・会員外協力者に対する謝金を制度化したことは大会を活性化するには、有意義であると思われる。但し、会員外協力者の方には、これを契機として社会情報学に興味を持って頂くようご説明し、両学会への入会を勧誘することが適切であろう。

□自由報告

- ・エントリー及び論文受付において、電子メールと Web の活用を行った。次年度に向けていくつかの改善案を提案した。

- ・改善へ向けた自由意見

- ・フロアからの質疑応答をより活発にするため、コメンテーターを無くしてはどうか。
- ・会員に対する発表時間の厳守を徹底する必要がある
- ・発表と発表のインターバルを1分程度確保するようにしたら、良いのではないか
- ・論文執筆において、問題意識、関連研究での位置づけ、研究方法、考察、結論、今後の課題などについて、研究発表募集の折、簡単なガイドラインとして、提示しておくことが考えられる。
- ・コメンテータからのコメントをもう少し短くしても良いと思う。ただ、コメンテータからのコメントは専門的な観点から有意義であり、コメンテータをつけたほうが良い。
- ・発表時間の管理を厳格に行うためには、やはり各会場に一つずつカネがあった方がいいように思う。学会が保有する備品として購入し、会場校が持ち回りで引き継いではどうか。

□特別講演

- ・新潟県知事 泉田裕彦氏で、テーマは「災害時に IT（情報技術）の果たすべき役割」であった。知事就任直後に「新潟県中越地震（2004.10.23）」に直面し、「新潟県中越沖地震（2007.7.14）」も遭遇した現職知事のいわば体験を通した話で、聴衆はリアルな災害情報過程の諸問題を実感することができた。

□若手研究者支援ワークショップ

- 若手研究者支援企画としては、公募&実践型ワークショップ第三弾を開催した。テーマは、「蓄積・再編・駆使する／される情報アーカイブ、集合知、クラウドコンピューティング」。コメンテータ以下の3氏。

岡本 真先生（『ACADEMIC RESOURCE GUIDE』発行人）

河井孝仁先生（東海大学文学部広報メディア学科准教授）

遠藤 薫先生（学習院大学法学部政治学科教授）

- 司会は、竹之内禎先生（東海大学）。報告に応募し、採択された指定報告者は以下の3氏。

石内鉄平先生（茨城大学 ベンチャービジネスラボラトリー）

増本貴士先生（関西大学 総合情報学部）

松本早野香先生（明治大学 大学院理工学研究科）

□英語チュートリアル

- ・参加した人数は少なかったが、その分、意欲ある参加者にとっては個別の疑問をなげかけることが可能であるなど充実していた。
- ・対象を英文アブストラクトの書き方程度に限定することも一案。

□研究発表賞

- ・最後の「自由報告セッション」時間帯の投票集計が選考の時刻を遅くしており、集計に工夫が必要。
- ・座長・コメンテーターが、自らが指導する大学院生についての投票を自主的に辞退するというフェアな事例が見られたが、他方、共同報告グループ内部で相互に投票を行うケースが見られた。
- ・学会発表賞の趣旨や基準について、JSIS と JASI で必ずしも、共通理解が作られている訳ではないことが感じられた。

□合同表彰式

・JSIS は、総会で各種の受賞者を紹介することになっているので、「合同での表彰」は二重手間になることから、次回からは再検討が必要。

□企画委員会の運営

3 回、JSIS&JASI 合同企画委員会が開催された。

京都大・学習院大・名古屋大・東京大・新潟大と 5 回の共同開催が続けられ、大会運営の基本的体制を構築しえたものといえよう。

会員や参加者に対する「合同研究発表大会の到達点と課題」を毎年作成し、報告することが担当者の説明責任であるが、この点は不十分であるので、次年度からは明確に企画委員全員による報告書の作成が要請されている。

また、特別講演やシンポジウムの内容・人選が遅れ気味であったことから、次年度の企画委員会は、十分に審議しうる時間、民主的運営体制を構築すべきであろう。

§6 企画委員会

若手支援班 企画委員 柴田邦臣

(1)若手支援（企画委員会）の活動報告

企画委員会は、副会長の大國委員長のもと「若手支援企画」と「Web リニューアル」の 2 つの役割を与えられました。若手支援班は、2 年間で「BJK＝公募型&実践型ワークショップ」という企画を実施しました。ワークショップ(WS)は以下の特徴をもたせ、2008 年秋に東大、2009 年 3 月に名大、2009 年 9 月に新潟大にて行いました。

1. 研究の” 具体的意義” の支援＝若手的なテーマ設定と公募重視

余裕のない若手は、インセンティブがなければ学会にもきません。インセンティブは、「査読ポイント」と「人脈形成」です。そこで公募・査読型としました。企画委員会内で査読委員を立て、ポップなテーマ設定をすると共に、厳正に審査するようにしました。若手同士のピアレビューという意味合いもあります。

2. 研究の”社会的意義” の支援＝実践重視

科研費でも「研究の社会的意義」を問われますが、社会経験も人脈もない若手にとってはハンデです。そこで学会の名前と予算で、「この人に報告を聞いて欲しい！知り合いになりたい！」という各テーマの「第一線の実践第一人者」をお呼びし、コメンテータとしました。

第 1 回での時間不足、第 3 回での査読中止などがありましたが、全体としては良質な報告と討議が行われ、有意義であったと評価できると思います。

(2)若手支援 WS の課題について

1. 予算の計上

コンセプトとして「第一人者を謝礼を払ってお招きする」ことになるので、お金がかかることがありますが、企画委員会には予算が付いていません。結局、研究委員会のご好意で予算をお借りして実施していましたが、予算確保の懸念が残りました。

2. WS の位置づけと連携

ワークショップのすべてが年次大会内の WS や、地域での研究例会と共催でした（予算の関連もありました）。運営は若手が主体的に行うことができましたが、査読主体としての疑問がでるなど、企画委員会としての位置づけと他の委員会との関係構築にやや流動的な点が残し、定期的な連携というところまでには到達できませんでした。

担当者的見解として、WS のコンセプトには得られるものが多いと判断しているのですが、現状の形式で続けていくにも限界が見えていて感じています。よって、以下のような発展形がはかれるとよいのではと考えています。

(3) 今後の提案

私見ですが、若手支援を研究委員会のメインコンテンツのひとつとして位置づけた方が、位置づけははっきりし、各種の連携もとれるのではと考えます。例えば具体的には、以下のようなアイデアを実現できるのではと思います。

a. 若手研究者が描く「社会情報学のフロンティア」

近年の学術研究は境界領域が広がるとともに「どの領域が生産的で、どこがフロンティアか」を描き出す試みが国際的潮流ともなっています。若手にとって「社会情報学」が未来ある領域であるか、どう設定できるかは死

活問題ですし、学会の発展にも繋がると考えます。単に学会報告や論文執筆のノウハウだけではなく、学術的なディシプリンの担い手そのものを支援するような、長期的に若手を育成する視野を持ったWSを開催できると、有意義と考えます。

b. 若手による、up-to-date な国際学会・会議の検討と参加支援

国際学会への参加が求められる昨今ですが、社会情報学のようなテーマの場合、どの学会にどのように参加したらよいか迷うことも多いと思います。昨年度に、若手を中心に情報を集め、国際潮流を分析しつつ、競い合って参加する「国際学会で自分の報告を聞いてもらう企画」を練っていました。実現には至りませんでした。ぜひ研究委員会に検討していただければと思っています。

c. 「社会情報学研究」の公開査読会としてのWS

JSISの「社会情報学研究」は投稿数が多いうえに査読も厳密で、学術誌として評価を得つつあると感じています。ただ、余裕のない若手が見切りで粗雑な投稿をすることもあるようです。そこで、若手WSを「社会情報学研究」の公開査読会として開催する、という案も考えていました。

ただ羅列したのみですが、ご参考になりますと幸いです。私見以外にもいろいろなアイデアがありますし、より優秀な若手研究者の方々が、JSISには多くいらっしゃいます。

多くの学会で若手の会員が減少しているなか、JSISはやる気のある優秀な若手が多くそろいつつあると感じています。ぜひ皆さんに各委員会活動などでチャンスを与えてくださり、学会の活性化につなげていただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

§7 渉外・交流委員会 遠藤薫

<今期の主な改革点>

1.JSISとJASIの合同大会開催のルーティン化

2005年から始まったJSISとJASIの合同大会がルーティン化するとともに、大会参加者の増大も見られるようになった。

2.JSISとJASIの合同洋雑誌発行

JSISとJASIの合同洋雑誌、JSIの編集・発行手順も軌道に乗ってきた。

3.若手支援ワークショップおよびチュートリアル開催におけるJSISとJASIの協力関係の形成

4.社会学系コンソーシアムへの参加

2008年度から社会学系コンソーシアムに学会として参加した。代議員会には学会代表として、黒須会長と遠藤が出席した。遠藤が理事に選出された。

5.日本学術会議シンポへの後援

2009年は日本学術会議メディア文化研究分科会のシンポジウムを2回、後援した。当該シンポには、JSISからも参加者がかなりあった。

<今後の課題>

1.JSISとJASIの共同関係をさらに建設的になものとするため、多面的な検討が必要である。

2.JSISとJASIの規則の不整合などについて、検討のためのワークショップを作ることも考えられる。(若手に積極的にかかわっていただきたい)。

3.合同洋雑誌についても、マニュアル化や細かい意識のズレなどについて、腹を割った話をする場が必要ではないか。

4.若手支援ワークショップおよびチュートリアル開催におけるJSISとJASIの協力関係も、もう少し、参加者の輪を広げるためにも、開催手順などはルーティン化した方がよいかもかもしれない。

5.社会学系コンソーシアムをどのように活用していくのか。積極的にアイデアを募りたい。

6.学術会議とも、共催などのかたちでイベントを行うのも一つの案である。

§8 法規委員会 岡田安功

活動は主に、会長からの諮問によるものと事務局からの要請に基づくものに分けられる。事務局関係の要請による活動は、法規委員長が総括理事を兼ねていたことと関係がある。

1. 会長からの諮問による活動

「名誉会員推薦基準についての申し合わせ」を制定した。任期切れ間際であるが、会長選出手続について規定を作るように指示を受け暫定案を作成した。

2. 事務局からの要請による活動

若手とシニア及び休会中の会員に対する会費減免を実施するために、「日本社会情報学会規約」と「日本社会情

報学会実施細則」を改正した。

3. 委員会の発案による活動

事務局に対して JSIS の著作権に関する問い合わせが絶えないので「著作権 Q&A」を作ることにし、2008 年 12 月の理事会で審議していただき、理事会へ再提案することになっているが、12 月の理事会で宿題となった部分について委員会内の調整が未了のため次期委員会へ引き継ぐことになった。

4. 今後の課題

学会の活動にとって法規委員会が独自に活動を起こす必要はそれほどない。理事会が何かをしようとしたときに、その必要に応じるという受け身の体制はこの委員会の性質上やむをえないと思われる。ただ、総括理事を兼務した経験から述べると、現在の規約と実施細則は条文の形式や構成が煩雑で分かりにくいので、同じ内容のまま分かりやすい形式に再編する必要があるのではないかと、思われる。

§9 事務局 藤井史朗、岡田安功

1 学会事務の一部を外部に委託した。

2008 年度後半より 2009 年度にかけ、会費の徴収率の向上と事務局の負担軽減を目的に、会計業務の一部を外部委託した。さらに 2010 年度にかけて、入退会・移動など名簿管理の正確さとさらなる事務局業務軽減を図るための外注拡大を進める。

2 会費未納者に対する督促等を強化し、会費納入率を向上させた。

学会の会計業務外注や、それにもとづく会費未納者への督促強化、長期未納会員の整理等によって会費納入率は大きく増加した。また会員へのメールや郵便物での連絡もより正確となった。しかしなお、名簿でのあて先不明会員の所在や長期未納問題は残っており、さらなる改善が求められる。

3 理事会後、速やかに、ニュースレターをメールで配信するようになった。

名簿におけるメールアドレスの確認と修正等を行い、ニュースをメールで配信することとした。なお、現在はメールで配信したニュースレターと同じものを紙でも配信して HP にも掲載している。

今後はニュースレターの内容を工夫・充実させることが必要だが、今期は事務局長にも総括理事にもそのような余裕がなかった。例えば、大会報告の見聞録掲載、社会情報学をめぐる新刊案内、各地域での研究会の模様などいろいろと考える余地がある。

4 会費減免措置を平成 22 年から実施することとした。

2010 年度より、収入の少ない会員・留学中の会員に対する会費減免措置をとることとした。会費減免措置の対象は、60 歳以上で退職した正会員、修士修了以上で正規雇用の職にない正会員、休会中の会員、である。

この措置は、学会における実質的公平を実現するとともに、定年を迎える正会員・就職の決まらないオーバードクター・留学中の会員の退会を防止して、学会の経済基盤確保や活性化に役立つと期待している。

5 企画委員会の新設と HP 体制の改善

2008 年度より「企画委員会」を新設し、若手研究者支援事業の促進や HP 更新の体制整備を行った。さらに 2009 年度より、企画委員会の所轄業務として学会 HP の充実を図るべく改良を進めてきている。学会の HP を常に最新のものにすることが必要だが、事務局レベルで学会活動の細部まで詳細に把握するのは困難で、各委員会レベルにおける活動について事務局がコンテンツを作成して HP に掲載するのはかなり困難である。コンテンツの作成と掲載について、学会としてのルール作りが急務である。

6 会員名簿簡略版の発行

2007 年度には会員名簿発行を見合わせたが、2009 年度の大会に向け、会員名簿の簡易印刷版を発行した。このことによって、会員の現住所等の情報を再整理できたとともに、印刷費を大幅に浮かすことができ、学会財政の健全化に寄与できた。

7 著作権に関する取扱規程の制定

学会誌への投稿論文の Web への掲載等に関わり、著作権に関する取扱規程を制定した。

8 名誉会員推薦基準に関する申し合わせの制定

名誉会員の推薦基準を明確にし、「申し合わせ」規程を制定した。

9 英文雑誌 JSI の刊行

JASI と JSIS の合同による英文雑誌 JSI を刊行した。

10 合同研究発表大会関係

(1) JSIS と JASI との間で、大会開催校の隔年担当を確立した。

(2) 合同研究発表大会の運営に関する諸原則（大会発表論文の受付方法、「大会行事へのご案内」「研究発表（自由報告）のご案内」など）の確立に貢献した。

1.1 学会誌配布の多様な形態

この間、公的な研究機関や図書館など、学会誌の納品を求める際の多様な形態が生じた。例えば、図書館であるが、会員として登録するもの、学会誌の実費を支払い、毎年の送付を求めるもの、寄贈を求めるもの等である。現在はそのすべての形態を認めているが、何らかの整理が必要になるかもしれない。また、これらの引き継ぎも必要である。

VII. 2010 年大会合同企画委員会（第1回）議事要旨案

1. 開催日時：2010年3月6日（土）13:00-15:00

2. 場所：東京大学大学院情報学環6階実験室

3. 出席者

JASI：遠藤薫（学習院大）、太田敏澄（電通大）、小笠原盛浩（東京大）、河又貴洋（長崎県大）五藤寿樹（日本橋大）、桜井成一郎（明治学院大）、田中秀幸（東京大）、山本佳世子（電通大）

JSIS：伊藤守（早大）、遠藤薫（学習院大）、黒須俊夫（群馬大）、吉田寛（静岡大）、服部哲（神奈川工科大）

4. 議事要旨

（1）大会日程と場所の確認

日程：2010年9月4日（土）～6日（月）

場所：長崎県立大学シーボルト校

（2）合同企画委員等委員の確認

合同企画委員会委員

JASI：遠藤薫（学習院大）、太田敏澄（電通大）、小笠原盛浩（東京大）、岡田勇（創価大）、河又貴洋（長崎県大）、五藤寿樹（日本橋大）、桜井成一郎（明治学院大）、須藤修（東京大）、田中秀幸（東京大）、中井 豊（芝浦工大）、廣松毅（情報セキュリティ大）、山本佳世子（電通大）

※JASI 新体制の発足に伴い見直しの可能性あり

JSIS：伊藤守（早大）、遠藤薫（学習院大）、北村順生（新潟大）、黒須俊夫（群馬大）、柴田国臣（大妻大）、正村俊之（東北大）、吉田寛（静岡大）、服部哲（神奈川工科大）

現地実行委員会委員

JASI：河又貴洋（長崎県大）、吉光正絵（長崎県大）

JSIS：森田均（長崎県大）

（3）プログラム

引き続き、検討する。

（以下、仮に例年のスケジュールをあてはめるとして標記した参考）

9月4日（土）午前：自由論題報告

午後：基調講演+シンポジウム、懇親会

9月5日（日）午前：自由論題報告（+ワークショップ）

午後：自由論題報告（+ワークショップ）

9月6日（月）（P：午前：自由論題報告、W/S）

午後：自治体ワークショップ、特別講演

※JSIS 会員が企画・報告するプログラムは土日に行うことが前提

（4）自由論題報告のあり方

前回と同じく合計30分以内とする。

（内訳の目安：15分報告+5分コメント+9分討論+1分交替）

前回と同じく、座長及びコメンテーターを立てる方法で進める。

座長及びコメンテーターには以下の点を留意していただく。

-フロアからの議論を活発化する

-討論時間（5分）を厳守する（討論時間が長引くことでフロアからの質疑応答の時間が削られるのを避けるため）

座長は1つの報告で30分間の時間厳守を徹底する。

報告者及びコメンテーターは座長の指示に従う。

（5）報告キャンセルの取り扱い

大会当日に報告を行わなかった場合は報告として認めない。

この旨を大会案内で明記する。

具体的には、論文集印刷前にキャンセルがあった場合には論文集から削除する。同印刷後にキャンセルがあった場合には、会場で告知するとともに、実績報告から削除する等取り消された旨を公知するほか、J-S t a g eにも掲載しない。

一旦、振り込まれた参加費は、払い戻ししない。

当日のキャンセルがあった場合には、次の報告の時間繰り上げは行わない。

(6) 大会論文集(予稿集)の印刷について

CD-ROM化の方向性を打ち出すべく、紙媒体だけではなく、加えてCD-ROMでも配布することができないかなどの可能性について検討を進める。

(7) 大会に向けたスケジュール

4月 会員に対するCFP(学会通信) テーマ等の詳細はTBA

大会WEBサイト立ち上げ(開催校)

5月末 自由論題 ワークショップ等登録締切

#受付確認に注意することが必要(迷惑メールとして扱われた場合の問題を防ぐために)

6月末 自由論題論文締切

(8) 大会テーマ

以下の事項を参考にしつつ、引き続き、検討。

(河又先生の方で長崎でお願いできそうな人も考慮しつつ検討いただく)

○テーマ

グローカリゼーションの社会情報学:副題(グローバルとローカル)

○シンポジウム

東・南アジア(ベトナム中タイ韓)の研究者の参加

長崎としてアジアとの関係をどう形成しようとしているか。

○その他:最後に添付したメモ参照

(9) 若手ワークショップ

国際学会での発表の重要性、若手を派遣するようにしていきたい。 国際ワークショップ、英文セッションなど

(10) 参加費・懇親会費

参加費・懇親会費は昨年どおりとする。

(11) 会員外協力者に対する謝金

昨年の例を踏まえて、会員外の協力者に対する謝金について引き続き検討する。

昨年の例は、交通費は実費、宿泊費は1万円。シンポジスト謝金は1万円、ワークショップ5千円

(12) 原稿及びプログラムの作成について

プログラム作成担当はJAS I

自由論題報告等の原稿受け取りはJAS I, JSISそれぞれで行う

5. 次回合同企画委員会

5月15日(土)午後1時~(場所未定)

※ JAS Iの新体制発足後の関係者の都合によっては、調整があり得る。

次々回は7月開催の予定

(以上)

■大会テーマ関係メモ(このメモ部分は議事概要対象外)

アジア、医療、福祉地域内連携、地域間連携

グローバルとローカルな視点、グローカリゼーションの社会情報学

長崎県立大学:地域医療、遠隔医療

長崎の地域テーマ:離島

アジア地域等を対象とした国際的テーマ、韓国とは歴史的に通信使、NHKとのかかわり、高齢化

長崎総合科学大学 教授 フライアン ハークカフニ

基調講演:長崎大学副学長?、高島 肇久(国際放送社長、NHK関係者)?

特別講演:ソフトバンク?

VIII 日本社会情報学会 (JASI&JSIS) 九州地区研究会報告

テーマ: 持続可能な地域づくりに向けた情報環境と方向性～離島地域における地域メディアの役割と可能性～
日時: 平成21年11月6・7日 (金・土)
場所: 対馬市交流センター (長崎県対馬市)

J S I S九州地区研究会とJ A S I九州支部は、例年、研究活動の一環として、九州内の自治体と共に研究会を開催している。本年は、長崎県対馬市において、「持続可能な地域づくりに向けた情報環境と方向性」をテーマに研究会を開催した。過疎問題や地域再生が叫ばれるなかで、地域社会の存続と課題解決には地域内外との連携や情報共有を図っていくことが重要であり、こうした点について、市民、行政職員、研究者を交えて多角的に議論を深めることとし、特に、島嶼・中山間地域の持続可能な発展に向けた地域づくりのポイントについて、対馬市を取り巻く環境問題や医療、教育、地域経済の事例から現状と課題を探り、今後の地域の問題解決と情報環境の活用について考えを深めることを目的とした。第1日目の研究会は河又貴洋長崎県立大学准教授の総合司会のもとに、本多正幸長崎大学副学長兼医学部教授が「離島の医療問題～地域見守り支援システムの構築に向けて」と並木志乃東京大学大学院情報学環交流研究員が「持続可能な社会に向けた地域課題の解決と情報発信」をテーマに講演を行った。後半は横山正人長崎総合科学大学教授のコーディネートののもとにパネル報告会「情報化の中で地域の問題～医療福祉・環境・地域活性化・教育」がおこなわれ、三輪まどか宮崎経営産業大学法学部講師が「医療福祉」の分野から、竹内和朗長崎県新上五島町まちづくり推進課情報化推進室長が「地域活性化」の分野から、河又貴洋長崎県立大学准教授が「教育」の分野から、米田利己コミュニティメディア代表取締役が「地域メディア」の分野から報告を行った。

2日目はワークショップ「情報通信技術による地域の問題解決を考える」として①本多正幸長崎大学副学長兼医学部教授と守弘仁志熊本学園大学教授が「地域医療・福祉」、②竹内和朗長崎県新上五島町まちづくり推進課情報化推進室長が「地域活性化…地域交流(経済交流から住民交流まで)」、③河又貴洋長崎県立大学准教授「教育(生涯学習から子育て支援まで)」、④米田利己コミュニティメディア代表取締役が「地域メディア」をテーマにセッション別にワークショップを行った後にホールで総合討論を行った。討論では地域住民、自治体関係者など多くが集まり、地域の将来と情報化との関連について議論が行われた。

IX 会費納入のお願い (事務局)

2010年度の会費納入につき、請求書および振替用紙を同封いたしましたので、よろしくお願ひいたします。自動振り込み設定の会員の皆様は、7月に実施する予定です。
なお、請求金額等に誤りがある場合は、事務局までお知らせください。

X 事務局変更のお知らせ

2010年度より、日本社会情報学会事務局が下記に変更となりました。よろしくお願ひいたします。

日本社会情報学会 (JSIS) 事務局

〒737-4312 広島県呉市郷原学びの丘 1-1-1

広島文化学園大学社会情報学部社会情報学科今田研究室気付

TEL 0823-70-3300 FAX 0823-70-3311

e-mail : s-info@hbg.ac.jp

日本社会情報学会（JSIS）事務局

〒737-4312 広島県呉市郷原学びの丘1-1-1

広島文化学園大学社会情報学部社会情報学科今田研究室気付

TEL 0823-70-3300 FAX 0823-70-3311

e-mail : s-info@hbg.ac.jp

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/>

日本社会情報学会（JSIS）振替口座（ゆうちょ振替口座）

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1
NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会（JSIS）
会費・和雑誌受領担当 和泉恵子
- ・e-mail : desk@NPOicom.com